



中村俊定文庫  
文庫 18  
936







中流神中物物可也  
 梅のそよみささくさく不為乃  
 安よみささくさくさくさくさく  
 於しよみささくさくさくさくさく  
 のゆりささくさくさくさくさく  
 少の福形ささくさくさくさく









天満宮へついで三所へなほつた  
逢ぬのゝもさうしうくしに  
當職者運大言らつた  
乃に好まらぬしうら  
年くは又庫へちりし  
ときれおなまへく  
れもく神庫へ収め  
たは実かあせ  
新ある場歌の  
此一本とさけ  
るる歌ふのうくあるふ  
あゆむ

歌仙行

他へ

田つりた鮫らきき  
音りらあふら  
やらうし  
まらあ  
批打も  
籠  
毛  
あ  
あ  
先







うれて死なむし先あるからき  
梅あううん後ふ田つり

梅の集三十一韻

梅のうけ汁にれおれおれ  
御好ふおれおれ  
石子るおれおれの横おれ  
以紀選  
以教

梅れおれおれおれ  
橋おれおれおれ  
まよえおれおれの横おれ  
以紀選  
以教

一えおれおれおれの梅のさうり  
所おれおれおれおれ  
田おれおれおれおれ  
以紀選  
以教

うらおれおれおれおれ  
と年おれおれおれおれ  
箱のうけおれおれおれ  
以紀選  
以教



初夢やあしきし梅枝まよひし  
送溪

きりぬりし夢中長自ふ道希  
紀書

鏡を照らす梅の影  
梅竹

梅枝むらりて余花とて  
正午

白く梅枝影あり  
業平

白く梅枝影あり  
紀石

梅枝とて梅枝とて  
紀友

梅枝とて梅枝とて  
乙草

梅枝とて梅枝とて  
夢見

梅枝とて梅枝とて  
時笑

梅枝とて梅枝とて  
梅枝

梅枝とて梅枝とて  
新人

梅枝とて梅枝とて  
業平

梅枝とて梅枝とて  
以敬

梅枝とて梅枝とて  
尚負

梅枝とて梅枝とて  
杜若



んりれむ一つくれ物見家  
たき熱う好あしやうい

葉戸  
ふす  
湖東

ゆれややれあし句ふ物れ家  
つのはり麻れはあしうのあし

龜又  
逸上  
口河

まふあしむやういりりれむ  
近くゆりつるあしむれ家  
あしむるまじりん飛居のうけ

我竹  
むす  
是兄

あしむあやむるあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむ

杜若  
瓶子  
用ね

あしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむ

踏長  
声夏  
紀子

あしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむ  
あしむあしむあしむあしむ

美由  
以教  
新人



梅れむ所し遠くも家ちるれし  
都の地くくい合なきしらくま  
くもなき世ありし都くも金なれり  
武昇 逸侯 去角

とんるりと梅くも并くもまらふ  
一くもあふふのまらるるくも  
総角れそくもあうくもに風  
朽竹 杜谷 紀山

あかうくもあれて雲も梅のふ  
古くもいふもくもくたふも  
むさのふん門くもくもくも  
国南 谷町 必千

梅れどし端ありし梅のむ  
けすくもい汁に梅の芽とく  
子娘くもくもあふくもくも  
時笑 紀夕 逸侯

乞程いれしとまくも梅れふ  
つてくもあしおふ入ふれくもへ  
かちりくもいふあふくもくも  
尚奥 朽竹 秀金

えめりれくもあふくも梅のふ  
高月くもいれ梅の芽より  
くもくもくもくもくもあふくも  
笑夏 武昇 梅本



うられむらむら白しれ姿もね  
小山世もあまのまゝに射片け  
を細の籠もみよくしとる籠も  
籠も

をふりねく後を眠らぬ梅のむ  
皆實りて高る籠やけなく  
あまのまを柳一つ柳もかぶる

うらむらむら白しれ梅のえね  
風と柳もこれとふし待合  
ゆふもあまのまゝに梅の籠も

逸所

因事

籠子

是足

時笑

尚莫

許人

既东

美物

うらむらむら白しれ梅のえね  
梅もこれ梅もこれの七層  
令屏れまゝに破る人うらむら

うらむらむら白しれ梅のえね  
此れ恩と七人まゝに梅もね  
昔もあまのまゝに梅もね  
さふねもあまのまゝに梅もね

うらむらむら白しれ梅のえね  
此れ恩と七人まゝに梅もね  
昔もあまのまゝに梅もね  
さふねもあまのまゝに梅もね

口踏

紀百

芙蓉

去角

秀心

逸上

紀子

足見

逸所



むらさきと雲のちの梅の白ひか  
しらさしと物まよはせ  
組所はこれより新あきかんて  
紀百  
口路  
園車

くみあふくきまの洞ふ小庭か  
つねしと子しとけさるる風  
入さるたのちたしそはりき  
標木  
造行  
路長

すひとれ梅れあさく  
梅あふきとれりくせい  
三月はけはらるるの久あき  
乙州  
去角  
龜文

具引

ねからや服とる久むあは風  
は神れあ心あらん梅乃む  
梅うや梅子ましくし回し  
くちうやあてしくはけし志  
まらんあはいらはし梅の合は  
かけやしくしあけまきくや直方梅  
志は先の城よりあしとあは  
うけさる梅子の元はるの梅  
あしとあは白ひ新や外し  
世に少あふあまし梅のま所  
来はさかたれぬ梅を白ひか  
石雨  
連志  
む橋  
作昌巴  
和扇  
宗宇  
免尖  
白泉  
明泉  
妍車



接穂くし梅のこころとて下らん  
此意を

題梅

けつれりれあまのまねうつらぬ  
つらとよまふとふらふ梅うえ  
正負

咲初る梅は白ふいとあまを  
志ろくしつらふとまねをいふ  
若笑

人梅は信ちるは己之徳也

如く梅や身ハあまの梅のむ  
梅もつらふといくやんら梅  
貴月

夕や美や梅ある門は咲けし  
瑞雪新や赤服はつらむ梅は  
若屋

梅くや梅のこころとて地意  
白雲

梅はむくし梅のこころとて地意  
雲思ふや山物も梅はまのつら  
信しつらふと梅のこころとて地意  
若川

日

梅るあまのこころとて地意  
東風よんかきんし女子は梅  
友以

日

梅もや汗のそるは梅のつら  
かーとつらとつらつら梅は  
それ後の梅はまふとつらとつら  
幸らつら梅のこころとて地意  
木疎  
疎後  
曲成  
藥子



梅

梅も今もみさきにきり那葉えが  
いぢりすきくしと葉あはるる  
又見くは新に中れなるもいし

年号

梅あはる

梅よりみせれそと急れよあはる  
梅よりみせれそと急れよあはる  
孔妻やすきまさら夕日氣

仙志  
賀住  
凍中

去身

平河(か)らみせれと急れよあはる

一册

梅

梅より下馬れさきさきあはる

舟車

梅よりや日一極あはるよあはる

溪舟

りよと又あはるよと急れよあはる

寄友

年ぬのれあはるよと急れよあはる

笑泉

去身

梅よりみせれと急れよあはる

汀舟

梅

梅 葉 噴 如 在

梅よりみせれと急れよあはる

要竹

梅よりみせれと急れよあはる

兔娘

梅よりみせれと急れよあはる

度也

梅よりみせれと急れよあはる

不白

梅よりみせれと急れよあはる

疎吟



あつし梅はけりさうらわぬはな梅も  
お殿に逢ふまうらんは梅の白し  
梅のふゆはまうし叶ふさるる梅

連歌

あやあしと梅夕度梅のむ 昨木

鏡解と出ふ屋らや梅のふ 佐人

梅のふゆはまうし叶ふさるる梅 表光

梅のふゆはまうし

あつし梅はけりさうらわぬはな梅も 表光

梅のふゆはまうし叶ふさるる梅 佐人

あつし梅はけりさうらわぬはな梅も 表光

梅のふゆはまうし叶ふさるる梅 佐人

あつし梅はけりさうらわぬはな梅も 表光

梅のふゆはまうし叶ふさるる梅 佐人

あつし梅はけりさうらわぬはな梅も 表光

梅のふゆはまうし叶ふさるる梅 佐人











其真

けりるなりやあな後へかへるるの  
梅 梅

鹿野 翠峰

まのうらむしむし其のやの梅

之羽

梅のうらむしむし其のやの梅

之羽

はくくくくは鶴は鶴くくくく

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真

日

梅くくくく又くくくくくく

花柳を 不帽

鏡はくくくくくくくく

紀述

車向くくくくくくくく

其真

梅

所割くくくくくくくく

舟本

少り神の神くくくくくく

女 國文

くくくくくくくくくく

其真

年の梅くくくくくくく

其真

けりるなりやあな後へかへるるの

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真

梅の枝の一枝きくく梅の枝

其真



世に中や里樹さきし梅はを 傍り左 素水  
まふいしやし梅は梅入白ひく夜 梅意

梅

笑山堂

八そとふまけあしひくはくし中梅 左 右  
あかろくははは白ひやむさきり  
まをまし梅は白ひや汁のそ  
あし梅や中し思し汁の梅  
桂をく梅は白ひく梅は白ひく  
紅梅比人かぬする磨り那  
脚自愛く信く坊梅のまき子  
梅はやと月音代れく水清ひ  
日あふりまかろくを新 洲の梅  
  
魯 楓 山 暮 夕  
魯 楓 山 暮 夕

二つとつ梅穂く梅く白ひく 素格

其真

さわか中くあふんとすし左のそ 左 右  
させしし梅はまきり初之願  
とつとつ梅穂く梅は白ひく  
神風中しちるる梅は白ひく  
まをまし梅は白ひく梅は白ひく  
梅は白ひく梅は白ひく梅は白ひく  
負ふく子し梅は白ひく梅は白ひく  
  
魯 楓 山 暮 夕  
魯 楓 山 暮 夕

梅

一枚し脚し梅さきり 神は梅 還 候  
外梅く梅は白ひく梅は白ひく



き酒

元梅色あふたりのせそ梅て居修成氏久景

題平川菅相公廟 錦江村瀬周邑

丞相祠前一樹梅 欄干回見數花開

經風吹起香林裡 春色依然万里来

梅

梅よりんり遠入や 簾れれそ 水宿

梅

人かたむき居れはふらうつりり 知今

をくくくおとめりや梅心 紀英

梅れむ枝く梅るるそそく仲 梅

畫みきんらうつさ句いやくの後市 宜耕

梅 市買一連十九吟

東風ふくや梅のそそく梅し宿 春里

ちる風れ美いゆりり意れ梅 卜柳

年鏡れ梅くそそく梅心 扇志

をくくくや梅そそく梅心 友春

年何れ梅より外に梅心 清雨

梅心はるるそそく梅心 如一

咲くそそく梅心 紀忘

卯の梅え東かきそそく梅心 有倫

凡向くそそく梅心 蝶亭

答くそそく梅心 文口



うら久比壽

うらひすわのあけゆくは  
月見守とくくさくさ  
うらひ壽すくくは  
あけゆくは  
うらひあけゆくは

去里  
扇志  
悟多  
束新  
久口

うら久比壽

見れけし先八忍れ鳥  
うらひ比次すくくは  
うらひあけゆくは

悟多  
有矣  
紀志

うら久比壽

うらひあけゆくは

未碩

うらひあけゆくは  
うらひあけゆくは  
うらひあけゆくは

志白  
志賢  
紀十  
祖人

うら久比壽

うらひあけゆくは  
うらひあけゆくは  
うらひあけゆくは

桂童  
水巴  
程石  
む氣

うら久比壽

うらひあけゆくは  
うらひあけゆくは  
うらひあけゆくは

座松  
呉高



多れ系持れ<sup>て</sup>入る<sup>る</sup>を<sup>り</sup>か 花谷

沖<sup>の</sup>海<sup>と</sup>孔<sup>を</sup>梅<sup>は</sup>候<sup>る</sup>如 東<sup>の</sup>持

凡<sup>れ</sup>の<sup>意</sup>と<sup>思</sup>て<sup>梅</sup>を<sup>は</sup>る<sup>る</sup> 霞<sup>の</sup>山

を<sup>せ</sup>し<sup>ま</sup>梅<sup>も</sup>平<sup>な</sup>る<sup>る</sup> 走<sup>る</sup>角

正<sup>直</sup>れ<sup>る</sup>下<sup>を</sup>梅<sup>は</sup>條<sup>の</sup>如 松<sup>の</sup>雨

志<sup>は</sup>し<sup>め</sup>た<sup>と</sup>程<sup>は</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>梅</sup> 菊<sup>の</sup>秀

壽<sup>と</sup>梅<sup>は</sup>一<sup>つ</sup>の<sup>如</sup> 年<sup>の</sup>壽

術<sup>あり</sup>ふ<sup>か</sup>此<sup>は</sup>見<sup>る</sup>事<sup>は</sup>地 麩<sup>の</sup>撃

松<sup>の</sup>枝<sup>は</sup>え<sup>り</sup>か<sup>る</sup>る<sup>る</sup> 年<sup>の</sup>壽

と<sup>し</sup>て<sup>も</sup>馬<sup>ふ</sup>と<sup>は</sup>の<sup>の</sup> 年<sup>の</sup>壽

夏<sup>の</sup>梅<sup>を</sup>種<sup>は</sup>る<sup>る</sup> 露<sup>の</sup>玉

花<sup>は</sup>梅<sup>は</sup>左<sup>に</sup>風<sup>を</sup>ふ<sup>る</sup> 新<sup>の</sup>水

種<sup>は</sup>梅<sup>は</sup>又<sup>も</sup>夏<sup>に</sup>梅<sup>は</sup>也 雲<sup>の</sup>庭

何<sup>も</sup>さ<sup>ら</sup>自然<sup>に</sup>梅<sup>は</sup>白<sup>く</sup>如 洗<sup>の</sup>松

梅<sup>は</sup>竹<sup>の</sup>只<sup>は</sup>潤<sup>を</sup>子<sup>は</sup>種<sup>は</sup>も<sup>も</sup> 良<sup>の</sup>美

梅<sup>は</sup>白<sup>く</sup>杜<sup>は</sup>は<sup>ら</sup>け<sup>る</sup>有<sup>る</sup>新<sup>の</sup>一<sup>葉</sup>

梅<sup>は</sup>白<sup>く</sup>杜<sup>は</sup>は<sup>ら</sup>け<sup>る</sup>有<sup>る</sup>新<sup>の</sup>一<sup>葉</sup>



葉をくわくやゆりこ息吸一花の  
可長  
あり新くゆりこく叶柄此葉  
盤  
光りくしんくをとある梅の花  
廣之

奉納

清水

梅うぐふ汝瑞垣のち幣  
来志

曰

来志編九文  
志川

おもしろく一候情はゆの梅  
志川

去真

志川

梅くわくこりけまに海のこり  
芥翁  
梅ふ新れ行はたうす田草  
柔葉  
水晶のまくと破り梅のむ  
石爾

梅くみ

笑顔れ白しあま梅ゆゆの梅  
濱月  
梅ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
品天  
梅ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
孤吟  
子新りゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
藍水  
伏あしゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
一鼓  
平川ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
三  
死ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
寸  
卯後ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
月  
此ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
声  
此ゆゆの梅ゆゆの梅ゆゆの梅  
架旭



日和奇

乙女子れこらるあふ神風吹くは  
わきまこらるあふ梅枝追風 孤吟

梅

梅枝ふさふさしある白ひり  
くもえぬ下ぬけはち梅枝を  
さす竹のま又けしこ白ひり  
ひさしたまふ梅枝をさす  
標より一際さす梅枝を  
さすさりとあめや梅枝を  
さすや梅枝に開く梅枝を  
谷川や流るく梅枝を

水芝 賀茂 斗之 岡岡 河長 田柳 李棠

梅

拔墻江嶺梅 破玉一技用  
何借麗人手 清香入夢来

沮深

春魚

鶯語得間處々春風光  
金鞍来魚東郊上日日柳條堪引人

同

長公

旭日雲閑綠映紅  
江南數處柳條影鶯舌  
院深樹中

梅

同

可愛高城西郭邊  
美人夢裡月花下  
玄酒清香獨吉蠲



襟もとへ栞れ白しや下白ん 瑞阿

くらしむは栞れえは添り扱れ栞 玄子

庭まや系後アした栞枝 隣子

多くと追して栞のむ 延之

一そして白し栞の栞 作枝

栞扱しんせり栞れ屋 投中

きく栞れある栞れも何ぞ心 連菰

ことり子れ栞れえりや栞のむ 連こ

栞枝く身れりえり鳥うね 連奇  
山くもえりえり栞れ下 水友  
此栞の栞やい川さ栞ひ木 袂く  
えりえりやめりえり栞のむ 何羨  
あれえりえりえり栞のむ 和夕  
えりえりえりえり栞のむ 文斗

栞れえりえりえり栞のむ 連親  
えりえりえりえり栞のむ 海系  
えりえりえりえり栞のむ 何羨  
えりえりえりえり栞のむ 和夕



表の章一独吟 柳子

去の北人し知しや芳野山

言ふ一入河津此不

石多き水子下し利にけし

柳一乞ち能れ柳大

けししとをしあるの柳の丹

栗柿ふきし去砂日あり

梅の比

勢比香のうらわは新梅の毛 初朝

初朝と初朝し梅の毛 初朝

神ふれくまをかめあ社物 花き

初梅や少神のうらわは初朝

志し梅を扱と登れ句し初

梅咲く今うお急とん此人登

之し多し子里に句ふむれ見

驛後れ梅とそい

同れと歩つ越えても扱の梅 桂里

梅

系子とゆらさぬ梅れ登りか 仙橋

去真

介に隣くまれ中來れまか 全

梅

多しあし家予あれ梅るん 止免

心く梅てはくく家居る 千村







ひやうまののりあるねん原の  
 我少  
 次子とめふらふふと結  
 形に  
 小麦播種と耕しと  
 杜公  
 たりふるに似て  
 武舉  
 形に流るれむと  
 尚矣  
 所以に  
 形に  
 二  
 我らとすぬは  
 形に  
 新入  
 携ふて  
 形に

人せよちや此年とあ  
 葉少  
 下女とて身飛ぬん  
 形に  
 及せとられと  
 乙卯  
 にくと月れ  
 い教  
 たりと  
 尚矣  
 けり  
 形に  
 一  
 たりと  
 杜公  
 たりと  
 我身  
 けり  
 形に



















